

教育目標	教育重点目標	担当	目標達成のための方策	学校評価質問項目 (評価項目)	肯定的評価 %	生保教	評価	(自己評価) 概評と改善策	学校運営協議会評価		
									評価	評価	コメント
(1) 広く知識を求め、不断の勉学に努める生徒を育成する  (2) 自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育成する  (3) 積極的に心身の鍛錬に努める生徒を育成する	○ 何事にも安心して挑戦できる生徒集団の育成  【人間力】  ① 確かな人権感覚の涵養とふるまいの向上	総務	学校行事の計画、立案を迅速に行うと共に、他の分掌や学年会との調整を図りながら学校として円滑に運営できるようにする。	本校の防災避難訓練などは、安心安全な学校生活に役立っていますか。 (生17)	95.2(-)		A	・年度当初に、学期ごとの防災避難訓練を計画し、1・2学期は火災を想定した避難訓練を実施した。2学期の避難訓練では、実際に消火器を用いた消火訓練も実施できた。いずれの防災避難訓練でも、生徒たちは安全な避難経路の確認や避難時の所作について学習することができたと考えている。さらに、島根県が主導している原子力防災訓練も実施することができた。その際、実際の場面を想定して緊急メールを用いた連絡なども実施できた。 ・2回実施したオープンスクールでは、学校説明や授業体験、部活動体験等を通して大東高校の持つ魅力を中学生に伝えることができた実感している。第2回オープンスクールにおいて、体験活動ができる部活動と大会等により体験活動ができない部活動が生じることが課題である。	A	・中学生に大東高校の魅力を伝える活動の更なる発展を期待する。 ・小中学校の保護者が、大東高校の教育に触れる場が設定できるとよい。 ・すべての部活動の体験活動ができるよう対応してほしい。	
			オープンスクール・部活動等により、中学校との交流や連携を進め、学校の魅力を高めることにつながっているか。(教10)	100(85.7)							
		生徒	生徒の諸活動を活発にする。 (挨拶、美化、思いやり、ボランティア活動等)	織部祭や球技大会、遠足などの行事、日々の部活動は高校生活を充実させるものとなっていますか。(生11 教8)	98.9(97.8)	100(100)	A	・学校行事等については、概ね生徒が主体的に取り組むことができた。特に3年生など責任を持って取り組めた。来年度以降は、生徒数が減る中で生徒一人ひとりの負担が増えるため、行事の内容を考えていく必要がある。 ・生徒会活動については、計画的に実施されていたが、HP・生徒会インスタ等での活動発信が少なかった。来年度は、活発にHP・インスタ等を利用して情報発信していきたい。 ・登下校時のマナー(自転車・歩行時)について、ご指摘を受けているように、スマホの利用、交通マナー等が悪いところが見受けられる。その都度、生徒部より注意喚起を行っているが、来年度は、交通安全教室等(警察依頼)を利用したい。 ・部活動における生徒の取り組みについては、概ね積極的に活動ができた。しかしながら、部員数が少なくなり部活動の精選を考えていかないといけない。 ・清掃活動は、生徒数の減少に伴い、少ない人数で分担し実施せざるを得ない。手の行き届かないところもあったと思うが概ねきれいな大東高校を維持できている。掃除用具の不備等は善処したい。今後ともご協力をよろしくお願ひします。 ・部活動の運営については、保護者会等の会合を実施し保護者と連携をとり運営することができた。今後とも、生徒・保護者と連携を図り、活発に部活動に取り組める環境を作っていきたい。 ・今年度は多くの先生方より服装の乱れについて指摘を受けた。来年度は、定期的(学期に2回程度)に身だしなみ指導を行いたい。 ・今年度は、7月に各部部長を集め指導を行った。しかし、内容的には主体的に自分たちで取り組む指導までできていない。来年度は、定期的(各学期1回)に時間を設け指導していきたい。 ・人権教育は、HRを始め学校行事での講演など人権について考える機会を持つことができた。また、左記の活動や人権教育日より、織部通信などでの発信についてもHP等を利用して発信することができた。令和7年度は、人権教育実践モデル校に指定されることを踏まえ、年度初めに人権にかかわる研修を実施し、教職員全員で人権教育に向け意識を高めて取り組んでいきたい。 ・生活アンケートやいじめアンケートなど各担任の先生方に協力いただき感謝している。アンケートには見えない部分で、人間関係の構築に悩んでいる生徒もいる。生徒面談を利用し、早期発見できる環境にしていきたい。			
				本校の生徒会活動は活発に行われていますか。 (生15)	85.0(82.1)		A				
				清掃活動はきちんと行われているか。 (教12)		70.4(71.5)	B				
				部活動は生徒・保護者の意見を反映したものになっているか。 (教15)		85.2(67.8)	A				
	本校では人格形成の場として部活動が活発に行われていますか。 (生16 保15 教16)				90.3(90.4) 75.4(78.6) 88.9(75.0)	A					
	各部活動のリーダー研修を実施する。	分掌内評価			B						
	② 主体的な活動を支える体制の構築	進路	個別面談、進路希望調査、進路検討会等を通して、生徒の実態把握に努めるとともに、教職員の共通理解を図る。	本校の人権教育(HR等)は有意義なものでしたか。 (生12 保12 教11)	91.5(89.3) 70.5(59.5) 88.9(89.3)		A	・各学年部による進路希望調査、3年進路検討会、1・2年文理・コース選択検討会などで生徒個々の実態把握に努め、教職員間の共通理解を図ったことが個別面談の高評価につながったと考えている。また、就職、公務員希望者に対する面接、作文指導や国公立大学の総合型、学校推薦型入試対策の面接、小論文指導についても組織的に指導できたことが良い結果につながったと考えられる。 ・オープンキャンパスの情報やおしプロ通信を進路のポータルサイトで生徒に示したり、看護体験の案内をしたりしたことで、生徒がさまざまな体験活動に積極的に参加してくれた。担任の先生方の紹介の仕方や後押しのおかげだと考えている。 ・キャリアパスポートについては、教員の評価が低いことから進路につながるための活用ができていないと考えられるので、各学年部とともに効果的な方法を検討することが必要だと考える。			
				本校の生活アンケートやいじめに関するアンケートなどは有効に活用されていると思いますか。(生13 教13)	78.1(-)	77.8(67.8)			B		
				本校では一人ひとりの生徒を大切にすることが行われていますか。 (生14 保13 教14)	87.2(88.4) 76.0(73.8) 88.9(85.7)				A		
	③ 積極的に心身の鍛錬に努める生徒を育成する	進路	オープンキャンパスやおしプロなどの体験活動の情報を整理して生徒に示し、自主的な参加を促す。また、「進路の手引き」を通じて3年間を見通した進路活動を意識させる。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標達成の場となりましたか。(生9 保10)	91.4(92.8) 88.4(86.5)		A	・生徒個々に向き合った進路指導が積極的に行われていると思う。 ・キャリアパスポートについて、その活用方法の再考が必要である。 ・探究活動の取り組みが見える化してきているので、キャリアパスポートに反映させてほしい。			
本校では生徒理解に基づいた組織的な対応が行われていると思いますか。 (保14 教14)				62.8(61.6) 88.9(85.7)							
「進路の手引き」、進路ガイダンス、企業・大学等見学などを通しての進路指導は、自分の進路決定に役立っていますか。 (生6 保8 教6)				86.1(89.3) 77.5(83.3) 70.4(67.8)		B					
			探究活動やキャリアパスポートの利用などにより、さまざまな学びが自らの進路につながるきっかけとなっていますか。 (生7 保9 教7)	81.8(84.4) 67.4(59.5) 48.1(35.7)							

		1 年 部	人権教育、HR 活動、学校行事等を通して自他を尊重する心を育て、互いに支え合う人間関係を構築させる。	本校の人権教育（HR 等）は有意義なものでしたか。 (生 12 保 12 教 11)	91.5(89.3) 70.5(59.5) 88.9(89.3)	A	人権教育の HR や学校行事等を通して、様々な経験を積むことができた。人間関係においては周囲を気遣ったり、互いに助け合ったりする場面が見られる一方、相手の思いや考えを汲みとることができず、人間関係のトラブルが起きたこともあった。そのため、特に2学期にはスクールカウンセラーの先生に、「自己理解・他者理解を深める授業」を実施してもらうなど、対応を行った。今後は他の機会も利用しながら人権意識を高めていこう努力したい。	A	・少人数ではあるが、聞く力や理解する力が少しずつ身に付けているように感じる。
		2 年 部	授業、HR 活動、学校行事等すべての教育活動を通して自他を尊重する心を育て、互いに支え合う豊かな人間関係を構築させる。			A	研修旅行や学園祭、人権教育の HR、その他の活動を通して様々な経験を積むことができた。その活動のなかで周囲を気遣ったり、互いに助け合ったりする場面が見られ、昨年と比べ成長を感じている。昨年度は、人間関係のトラブルが起きたことが何回かあったが今年度は今のところ大きなトラブルは起きていない。今後も適時、面談の機会を作りながら、また他の機会も利用しながら人権意識を高めていこう努力したい。	A	・情緒不安定になる生徒も落ち着いた学校生活を送っていたように感じる。
		3 年 部	生徒の実態に即した人権教育 HR を実践し、確かな人権感覚を培うとともに、円滑な集団生活のためのふるまいを向上させる。			A	・人権教育 HR は「公平な採用選考を確保するために(1学期)」、「幸せな結婚に向けて(2学期)」、「同和問題について学ぶ(3学期)」という昨年と同様のテーマで実施した。教員の寸劇をもとに差別性を考えさせたり、IGT を活用したグループワークを取り入れたりしたことで、生徒が差別の実相を深く理解することにつながったと考えられる。また、保護者の「分からない」と答えた割合も昨年の33.3%から24.0%へと改善しており、人権教育だよりやInstagram等を通じて生徒の感想や授業の様子を発信したことで、保護者の方々にもご理解いただけているようだ。	A	・生徒の主体的な取組、地域と社会との関わりが良い方向で変化していると感じる。更なる発展を期待する。 ・後輩を引っ張っている姿にたくましさを感じた。 ・スペシャルチャレンジの活動を小中学校で行ってもらうことは、大変有意義であった。 ・SNS での発信が増え、昨年度より学校行事について知る機会が増えた。 ・地域住民が学校行事に関わることで、生徒の学びにつながったと思う。
		授業・学校行事・生徒会活動・部活動等に主体的に取り組ませ、様々な場面で間違いや失敗を恐れず学び合い、挑戦する集団作りを行う。	本校の生徒会の活動は活発に行われていますか。(生 15)	85.0(82.1)	A	・部活動や生徒会活動で中心的な役割を担う機会が増えたことに加え、地域のボランティア活動や雲南スペシャルチャレンジプログラムといった校外での活動にも積極的に取り組む姿が見られた。特に学園祭では、保護者や地域の方々、そして県立大学の学生の方々の協力のもと新たな試みにも挑戦し、学校行事の成功に向けて一人ひとりが主体的に企画や運営に携わった。			
	織部祭や球技大会、遠足などの行事、日々の部活動は高校生活を充実させるものとなっていますか。(生 11 教 8)	98.9(97.8) 100(100)							
	本校では人格形成の場として部活動が活発に行われていますか。 (生 16 保 15 教 16)	90.3(90.4) 75.4(78.6) 88.9(75.0)							

\*「評価」欄の基準は肯定的評価の%：A=80%以上 B=65～79% C=50～64% D=50%未満

教育目標	教育重点目標	担当	目標達成のための方策	学校評価質問項目 (評価項目)	肯定的評価 %	生保教	評価	(自己評価) 概評と改善策	学校運営協議会評価		
									評価	評価	コメント
(1) 広く知識を求め、不断の勉学に努める生徒を育成する  (2) 自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育成する  (3) 積極的に心身の鍛錬に努める生徒を育成する	○ 生徒の主体的な学びを基盤とした学力の強化【学力】	教務	授業公開や中学校との連携、他校視察を積極的にに行い、ICT機器を効果的に活用して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を展開するための研究を行える体制を作る。	ICTの効果的な活用や学び合いなどにより、授業の質は充実していますか。 (生2保2教2)	88.2(76.7) 68.3(61.1) 88.9(89.3)		A	・授業研究・改善に関しては生徒、教員の自己評価は昨年より高くなった。授業評価アンケートを実施し、生徒は自分の取り組みを振り返ることができ、教員もその結果から、課題点を見つけ、改善に向けて研究ができてしていると捉えている。今年度は岡山の宮本教授を招き、評価方法の研究や、主体的に取り組む態度の育成を目標に教員研修を行った。また、教育指導課主催の「授業力向上プロジェクト」に関わる研究授業にも多くの教員が参加し、校内での公開授業や教科内で共有、伝授することができ、授業改善の雰囲気が高まってきた。 ・家庭学習への取り組みは、学習時間調査では少ない結果が出ているが、アンケートに対する生徒の自己評価と、教員の評価には大きな差がみられる。来年度は、1年生の「学びの花プログラム」の内容を深化させたり、教員研修や教科会・学年会において、教科から求める家庭学習の目標を確認し、生徒に明示したい。特に、学習に対するモチベーションが下がる2学期のスタート時期に、1学期の学習のフィードバックとともに、勉強の仕方を面談や授業で示していきたい。 ・図書館でのイベント(県立大学の学生図書委員との交流、図書館祭、クリスマスコンサート)を企画運営し、多くの生徒が来館してくれ、図書館へ足を運ぶ機会を増やすことができた。朝読書週間も実施し、少しでも読書に親しみきっかけにはなった。また、国語・英語・探究の時間で図書館を利用した授業も何度か行った。来年度は、朝読書週間の期間や1年生の図書館オリエンテーションの時間を増やし、より本に触れる機会を増やしたい。また、図書館を利用した授業例を全教員に紹介し、図書館を利用して、主体的・対話的で深い学びのさらなる推進を図っていきたい。	B	・家庭学習習慣の確立には、勉強する目的意識を生徒が持てるような働きかけが必要である。生徒はその気にならないと、いくら言っても勉強しないのでは。 ・家庭学習習慣について、生徒と保護者の評価にギャップがある。高校が求める家庭学習を明示すべきではないか。 ・家庭学習習慣について、生徒と教員の評価に差があることが気になる。 ・テスト前以外は学習をしない生徒が多いと感じる。過多にならない程度に課題の出し方を工夫してほしい。 ・図書館利用促進を進める中で、催しの必要な行事も必要であるので、継続・発展させてほしい。 ・図書館の活用についての項目が、昨年度より改善して良かった。	
			教科主任者会や校内研修会で評価方法の研究をさらに進める。また、授業アンケート等を通して、生徒に授業の振り返りをさせることにより、授業改善につなげるというPDCAサイクルを確立させる。	授業は、自分の興味関心を高め、学力を向上させるものになっていますか。 (生1保1教1)	92.5(91.9) 79.8(72.2) 92.6(89.3)	A					
			各教科や学年会と連携し、学習時間調査の回数を増やしたり、自ら進んで学習に向かうことができる仕掛け、課題の出し方等を検討する。	1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4保4教3)	77.0(75.4) 59.0(49.2) 37.0(39.3)	C					
		読書週間を設定し、全員で読書をする習慣をつくる。また、探究学習や進路学習を中心に図書館を利用した授業を依頼したり、図書委員会でイベントを企画する。	図書館は利用しやすいですか。 (生3)	69.5(22.9)	B						
	① 主体的な学びを引き出す授業の質の充実	1年部	遅刻の防止、清掃の徹底、挨拶の励行に力を入れ、規律ある生活環境を整え、学習習慣の確立にもつなげる。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生9保10)	91.4(92.8) 88.4(86.5)	B	・学校での基本的な生活習慣について、あいさつや清掃、その他の場面など、全体的には学校での生活習慣が徐々に身に付いてきていると感じられる。遅刻についても、例年に比べると減少傾向であり、時間を意識した行動ができていように思う。今後も基本的な生活習慣については、その都度生徒に声がけすることによって意識付けをしていきたい。 ・学習習慣について、6月と11月に実施した学習時間調査では、どちらの調査も昨年度に比べて平均学習時間が減少傾向にあった。学習時間調査や進路希望調査等の資料を用いた生徒面談を定期的に行っているが、生徒の意識付けにつながらず、成果が出ていないように感じる。課題等の提出が滞る生徒も一定数見られるので、「カルデアの牧人」やchromebookを活用しながら、個別の面談も継続して行い、生徒の意識を高めていきたい。	B			
				お子さんは、学校のルールがきちんと守られていますか。 (保6)	86.1(91.3)						
				1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4保3教3)	77.0(75.4) 56.6(64.3) 37.0(39.3)						
				手帳「カルデアの牧人」を利用して日々の予定の管理や振り返りができましたか。(生8)	29.4(47.5)						
	② 授業と家庭学習の連動	2年部	規律ある生活環境を整え、定期的に学習時間調査や生徒面談を実施し、目標設定を促すことによって学習活動に主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生9保10)	91.4(92.8) 88.4(86.5)	B	・進路希望調査や学習時間調査の資料を使い、面談を定期的におこなった。面談の実施が、日々の学校生活の振り返りや目標設定について一定の成果を上げていると考えている。 ・家庭学習時間の確保について、学習時間調査の結果、平均時間は121.6分(6月)から105.6分(11月)と減少している。一日の家庭学習時間の目標(2時間)を1学期は満たしていたが2学期は下回っていたので、今後は全体への呼びかけに加え、学習時間の少ない生徒を中心に個別に面談をおこなうことで意識を高めていきたい。 ・教室や廊下の整理・整頓、あいさつや清掃、その他の場面などにおいて学校での基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多数いる反面、不十分な生徒も見受けられる。今後は個別の面談を設定したり、手帳「カルデアの牧人」の有効活用を図ったりしながら改善に向けて対応していきたい。	B			
				お子さんは、学校のルールがきちんと守られていますか。 (保6)	86.1(91.3)						
				1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4保3教3)	77.0(75.4) 56.6(64.3) 37.0(39.3)						
				手帳「カルデアの牧人」を利用して日々の予定の管理や振り返りができましたか。(生8)	29.4(47.5)						

	3 年 部	chromebook を積極的に活用しながら家庭学習との連動を意識した授業を実施し、家庭学習時間を確保する。	ICT の効果的な活用や学び合いなどにより、授業の質は充実していますか。(生 2 保 2 教 2)	88.2(76.7) 68.3(61.1) 88.9(89.3)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台タブレット端末が配布されてから3年目となった。各授業では、forms で小テストを実施したり、スクールタクトを用いて課題を配信したりするなど、ICT を活用した授業の実践が充実しており、授業に主体的に取り組む姿が見られる。</li> <li>一方で、家庭学習時間調査では、一日平均196分(6月)から177分(11月)へと約19分減少した。これは、総合型選抜や学校推薦型選抜の準備に時間がとられたことも原因ではあるが、進路決定後の緩みや課題が出ていない教科については手をつけないといったことも理由に考えられる。</li> <li>手帳「カルデアの牧人」については、生徒用ポータルサイトやGoogle Classroomを通じた予定の管理にとって代わられている状態である。今後は、朝終礼やHRを通じて家庭学習時間を振り返らせたり、週ごとの目標を立てさせたりすることで活用を促していきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>端末を使い慣れているようには感じるが、卒業後も必要になる情報活用能力が身に付くよう活用しているか疑問に感じる。</li> <li>ICT を活用した授業については良いと思う。</li> </ul>
			1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生 4 保 3 教 3)	77.0(75.4) 56.6(64.3) 37.0(39.3)				
			手帳「カルデアの牧人」を利用して日々の予定の管理や振り返りができましたか。(生 8)	29.4(47.5)				

\*「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満

教育目標	教育重点目標	担当	目標達成のための方策	学校評価質問項目 (評価項目)	肯定的評価%	生保教	評価	(自己評価) 概評と改善策	学校運営協議会評価		
									評価	評価	コメント
(1) 広く知識を求め、不断の勉学に努める生徒を育成する	○ 地域や大学との連携によるキャリア形成の支援 【社会力】	総務	報道機関への投げ込み、ホームページ、facebook、Instagram、各種広報誌等を通して、教育活動の様子や成果を情報発信する。	ホームページやFacebook、Instagram、学校便り、緊急メール等により、学校の様子が伝わっていますか。	93.6(82.6)	100(85.7)	A	・学校だより「おりべ通信」の発行やホームページ等を通して、大東高校のさまざまな行事や生徒の活動の様子を発信することができた。特に写真を通して各イベントの具体的な雰囲気や生徒の活動内容を効果的にアピールすることができたと考えている。 ・緊急メールを通して自然災害等による公共交通機関の運行内容の変更や学校の時程変更について迅速に連絡することができた。次年度に向けての課題は、現在の緊急メールを担当している会社の事業停止にともない、他の緊急メール事業を行う会社と新規契約を行う必要があることである。また、教職員に対してはチャットを用いた緊急連絡も検討したい。	A		・SNSでの発信が多くなり、学校の様子が伝わって良い。 ・報道での取り上げが高校の魅力発信につながると思う。 ・ホームページ、インスタも良いが、有線放送の活用も検討してほしい。
			学校便りを全保護者、地域へ配布し、近隣小中学校等への送付、各種学校案内イベント等でも配布する。	(生10 保11 教9)							
(2) 自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育成する	① 地域との協働と探究学習の充実	教務	学年会への参加や年間計画作成、指導案の共有等を行い、探究活動の支援をする。	「総合的な探究の時間」に主体的に取り組み、1年生は自己理解・他者理解を深めることができましたか 2年生は地域課題について学びを深めることができましたか。3年生は自己実現に向けての学びを深めることができましたか。 (生5 保5 教4)	92.0(88.8)	100(82.2)	A	・生徒はそれぞれの学年の目標に向けて主体的に取り組んだことが見て取れる。また、地域との連携を図っていることも多くの保護者の方に伝わっていると言える。探究活動はすべての先生方に関わっていただき、進めていく必要があるため、学年ごとの共有会を設定し、スムーズに運営していただいた。特に2年生の雲南式探究では先生方に手厚くサポートしていただき、活発に活動できている。来年度は、さらに地域との連携を図っていくために、ineさんの探究活動への関わりを増やしていきたい。具体的には、学校に来てもらう機会を増やし、教員だけでは限界がある地域の関係機関へつなげる役目を担っていただけるよう依頼したい。また、各学年の年間活動計画を時系列にまとめ、全教員に共有し、学年のつながりや見通しが持てるよう示したい。 ・1年次に配布される「学びのガイド」(高図研発行)にも、探究につながる基本的な手法も多く掲載されているので、2年次の始めに有効活用したい。	A		・地域探究を2年間かけて取り組んでもよいのではないか。 ・探究アワードの1グループの持ち時間が短く、掘り下げることができなかった。 ・探究学習の取り組みは良いが、もっと外部に伝わる仕組みを構築してほしい。 ・探究アワードのしおりが、身内にしか分からない作りであった。 ・教員の評価が、昨年度からアップしていることを評価したい。
			「総合的な探究の時間」をはじめとする教育活動においては、地域人材等との連携・活用が図られているか。(教5)	79.1(63.4)							
			学校は保護者や地域との連携を取りながら教育活動を行っていると思いますか。(保7)	81.5(64.3)							
(3) 積極的に心身の鍛錬に努める生徒を育成する	② 高大連携の推進	生徒	相談で得た情報を担任・SC等と共有を図り、迅速な対応・支援ができるように努める。	本校では一人ひとりの生徒を大切にしている教育が行われていますか。 (生14 保13)	87.2(88.4)	88.9(85.7)	A	・生徒の健康状態に応じて対応できた。心配な生徒などをスムーズにSCと繋ぐことができ、その後の対応など情報共有することもできた。生徒数が減少するなかで、保健室に来室する生徒の割合が多くなってきており、一層の生徒相談の充実をはかっていく必要がある。 ・担任の先生方には、各学期の生徒面談等で生徒の状況確認に十分な時間を確保していただき感謝している。今後も相談できる環境作りに努めたい。 ・生徒支援委員会やいじめ防止等対策委員会など組織的な対応はできた。しかしながら、全職員に情報共有することが遅くなったケースもあり、今後は迅速に情報共有に努めたい。また、気になる生徒がいれば早期に相談できる環境づくりに努めたい。 ・保健だより、毎日の健康観察等しっかりと実施できた。今後とも、生徒自らが自分の健康管理ができるように保健だより等で有効な情報を周知していきたい。	A	・多感な時期の生徒を、よく対応してもらっていると感じる。	
			生徒自らが自分の健康状態について知り、健康な生活の実践に対する意識を養わせる。	分掌内評価	76.0(73.8)						
			進路ガイダンスや進路講演会、保護者対象の講演会・説明会の実施や進路だよりにより、進路に関する情報発信を行う。	「進路の手引き」、進路ガイダンス、企業・大学等見学などを通しての進路指導は、自分の進路決定に役立っていますか。 (生6 保8)	62.8(61.6)						
1年部	総合的な探究の時間や地域活動への参加を通して、様々な価値観に触れ、自分を見つめ、将来の生き方や進路について考えさせる。	探究活動やキャリアパスポートの利用などにより、さまざまな学びが自らの進路につながりかけとなっていますか。(生7 保9 教4)	81.8(84.4)	67.4(59.5)	81.5(64.3)	A	総合的な探究の時間では、1学期は「自己理解」、2学期は「地域理解」の内容の活動を行った。特に2学期に行った「ゲストトーク」の時間では、地域の方との交流を深めることができた。様々な価値観に触れることで自己の視野を広げたり、将来の生き方を考えたりするよい機会になったと感じている。キャリアパスポートについては、より具体的に活動や学びを記録していけるように、今後も継続して声かけを行いたい。	A		・総合的な探究の時間の地域の方とのファーストタッチが手探りになり、もったいない。生徒の理解が不足していると感じる。 ・ポスターを作って終わりでは、マンネリ化していくのではないかと感じる。 ・生徒が見つけれない事業所があるように思う。	
											2年部

	3 年 部	学習時間調査、進路希望調査、生活アンケート等の各調査で得られた情報をもとに生徒・保護者面談を実施し、進路実現に必要な適切な支援を行う。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生9 保10)	91.4(92.8) 88.4(86.5)	A	各種調査をもとに進路検討会を実施し、生徒の学力や適性に関して教員間の情報交換を密にした。また3年部の教員だけでなく、他学年の先生方からも面接や小論文の指導に協力いただいたことで、就職・進学ともに多くの生徒にとって第一志望とする進路を実現することができた。	A	・他学年の先生も協力して取り組まれていることを高く評価する。
--	-------------	---	--	--------------------------	---	---	---	--------------------------------

\*「評価」欄の基準は肯定的評価の%：A=80%以上 B=65～79% C=50～64% D=50%未満